## 緒方議員(自民会議)

平成 26 年 12 月 12 日 教育長答弁実録 (教育委員会)

## (問) 出産適性年齢に関する教育について

晩婚化の流れに乗り、結婚し、子供が欲しいと思ったときには時すでに遅く、 もっと早く出産に適した年齢を知っておけば良かったという声は多くあり、学 校における出産適性年齢に関する教育を行うことは大切と考える。

このことは、決して女性に子供を産めというバイアスをかけるものではない。 現在、学校教育のどの段階で、どの程度の時間を割いてこうした教育を実施 し、子供は理解できているのか、また、現状のままで良いと考えているのか、 教育長に伺う。

## (答)

女性の妊娠・出産につきましては、学習指導要領に基づき、高等学校2年次の「保健」の授業で、「生涯の各段階における健康」について学ばせる中で、2時間程度、指導しております。

授業におきましては、各種統計に基づく科学的データや医学的知見を用いて、 例えば、

- ・ 若年出産や高齢出産では、死産など出産にともなう健康リスクが高くなること
- ・ 妊娠中に、母親が適切な量と質の栄養をとることは、胎児が健康に育っために不可欠であること

など、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解できるよう指導 しております。

生涯にわたり健康に生きていくためには、生涯の各段階において、健康課題などを踏まえた適切な意思決定や行動選択が不可欠であることから、授業を通じて、生徒のこうした理解が深まるよう、今後とも学習指導要領に則り、指導してまいります。